

# 令和7年（2025年）の有珠山の火山活動

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更無し	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

## ○2025年の活動概況

### ・噴気などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～5）

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

4月22日と9月11日に国土交通省北海道開発局、7月23日に第一管区海上保安本部、10月21日に北海道の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口原内及び昭和新山の噴気等の状況、山頂火口原内の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。西山西麓火口群及び金比羅山火口群に噴気は認められませんでした。

### ・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は主に山頂火口原及び昭和新山付近の深さ1km以浅に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

### ・地殻変動の状況（図7～8）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

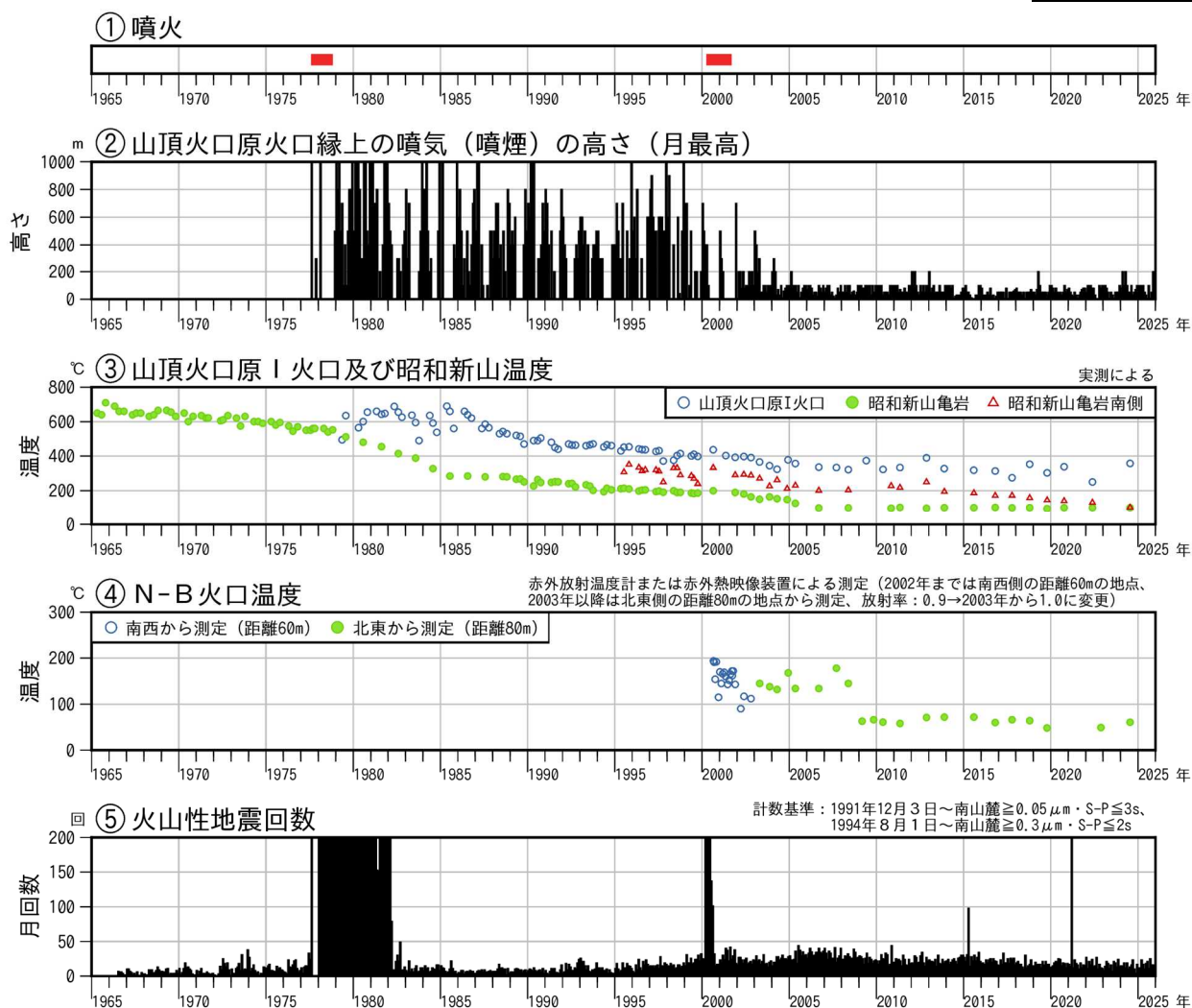


図 1 有珠山 火山活動経過図（1965年 1 月～2025年12月）

①の赤線の期間は噴火活動期を示します。

⑤の地震回数で、1991年12月2日以前の計数対象観測点は以下の通りです。

1966年 7 月 1 日～ 大有珠から南東側約 1.8km 地点

1976年 8 月 31 日～ 山頂ロープウェイ駅付近

1978年 1 月 12 日～ 大有珠から南西側約 3 km 地点

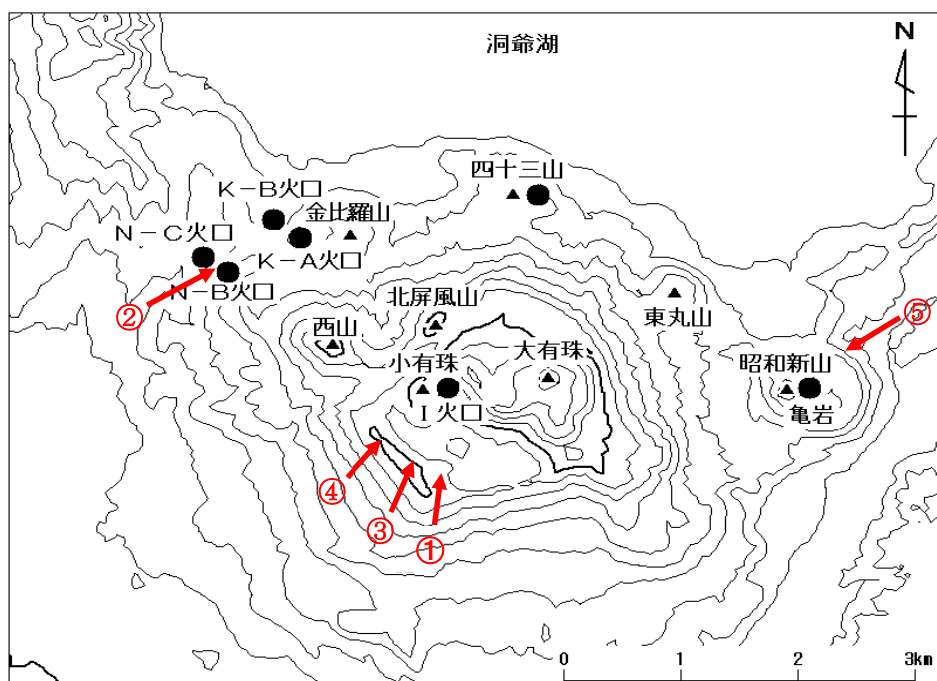


図 2 有珠山 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



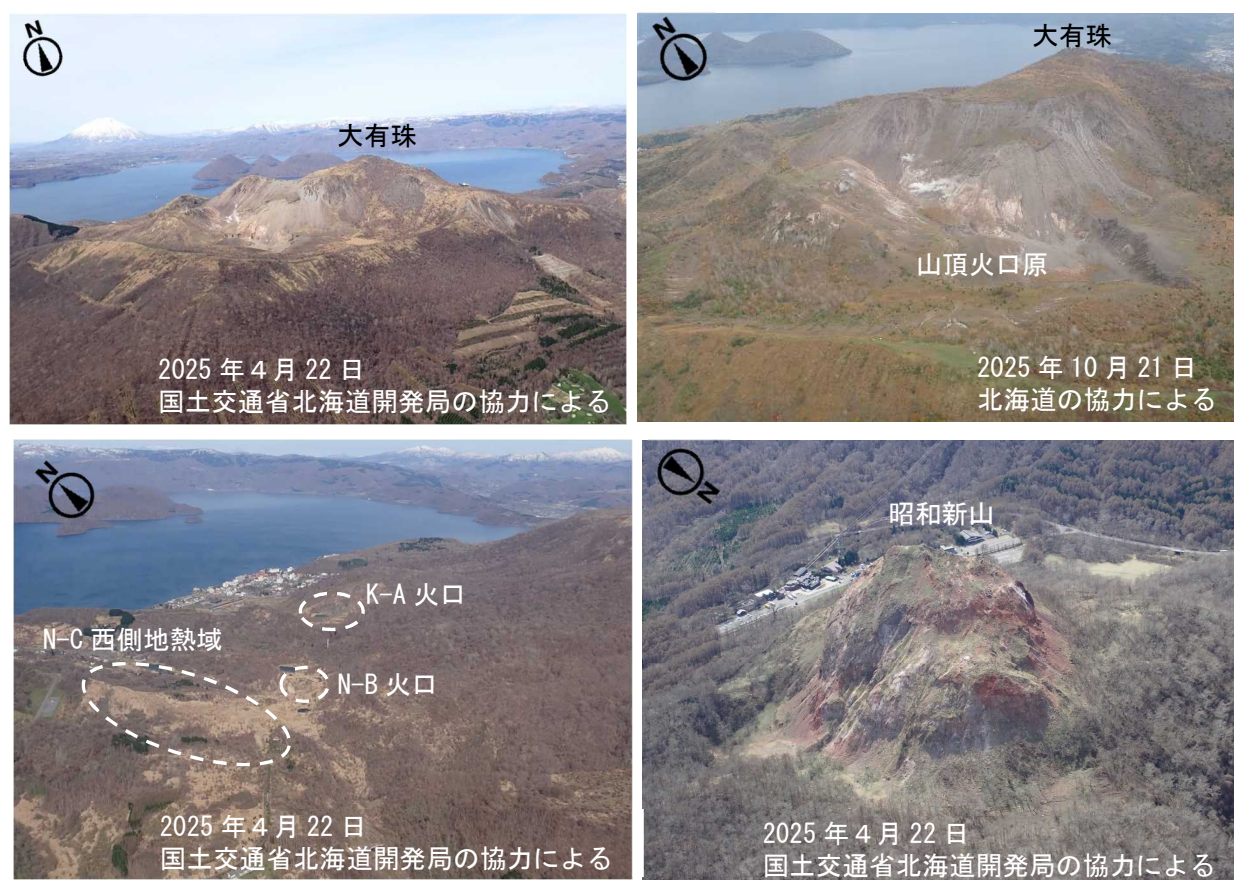


図 3 有珠山 山頂火口原（上）、西山西麓及び金比羅山火口群（左下）、昭和新山（右下）の状況  
 左上：南側上空（図 2 の①）から撮影 右上：南西側上空（図 2 の④）から撮影  
 左下：南西側上空（図 2 の②）から撮影 右下：北東側上空（図 2 の⑤）から撮影

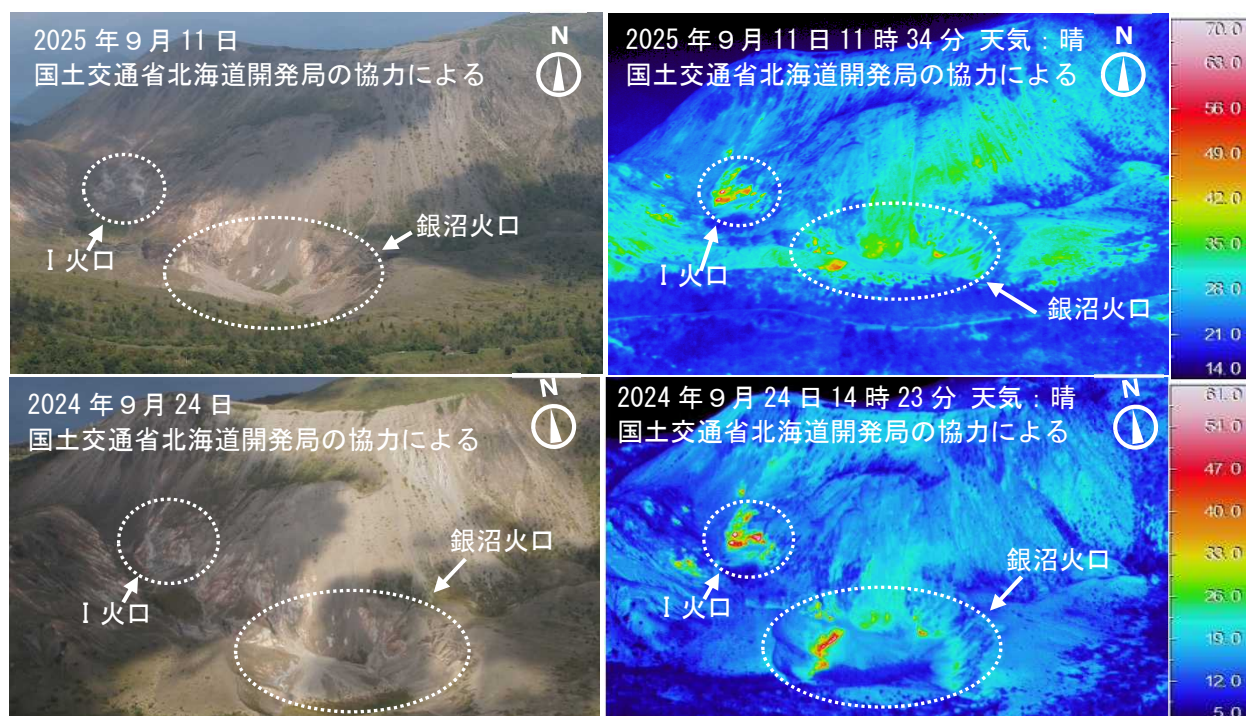


図 4 有珠山 赤外熱映像装置による山頂火口原の地表面温度分布

上：南側上空（図 2 の①）から撮影 下：南側上空（図 2 の③）から撮影  
 ・過去の観測（2024 年 9 月）と比べて、山頂火口原内の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図5 有珠山 北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

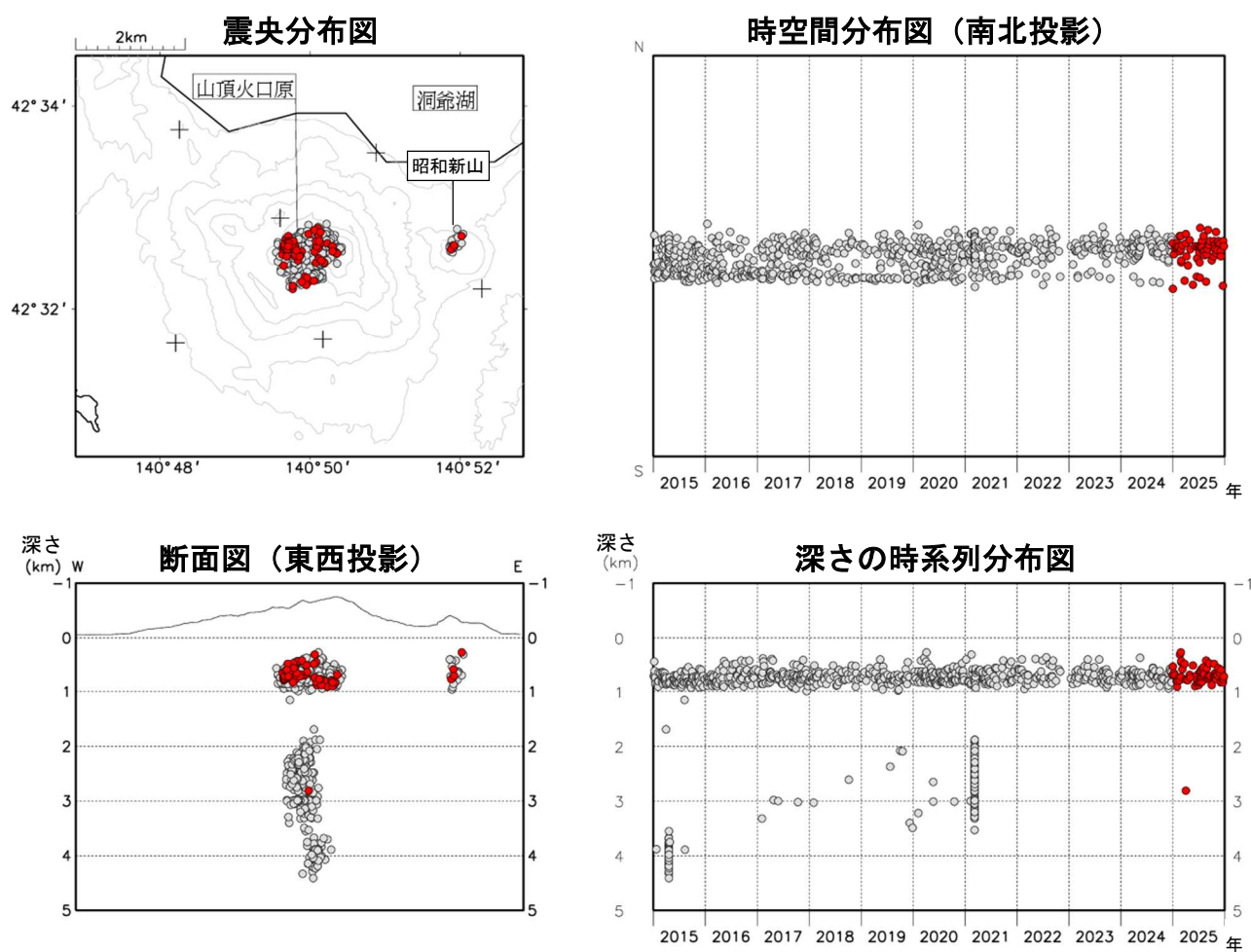


図6 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年～2025年）

●印：2015年～2024年の震源 ●印：2025年の震源 +印：地震観測点



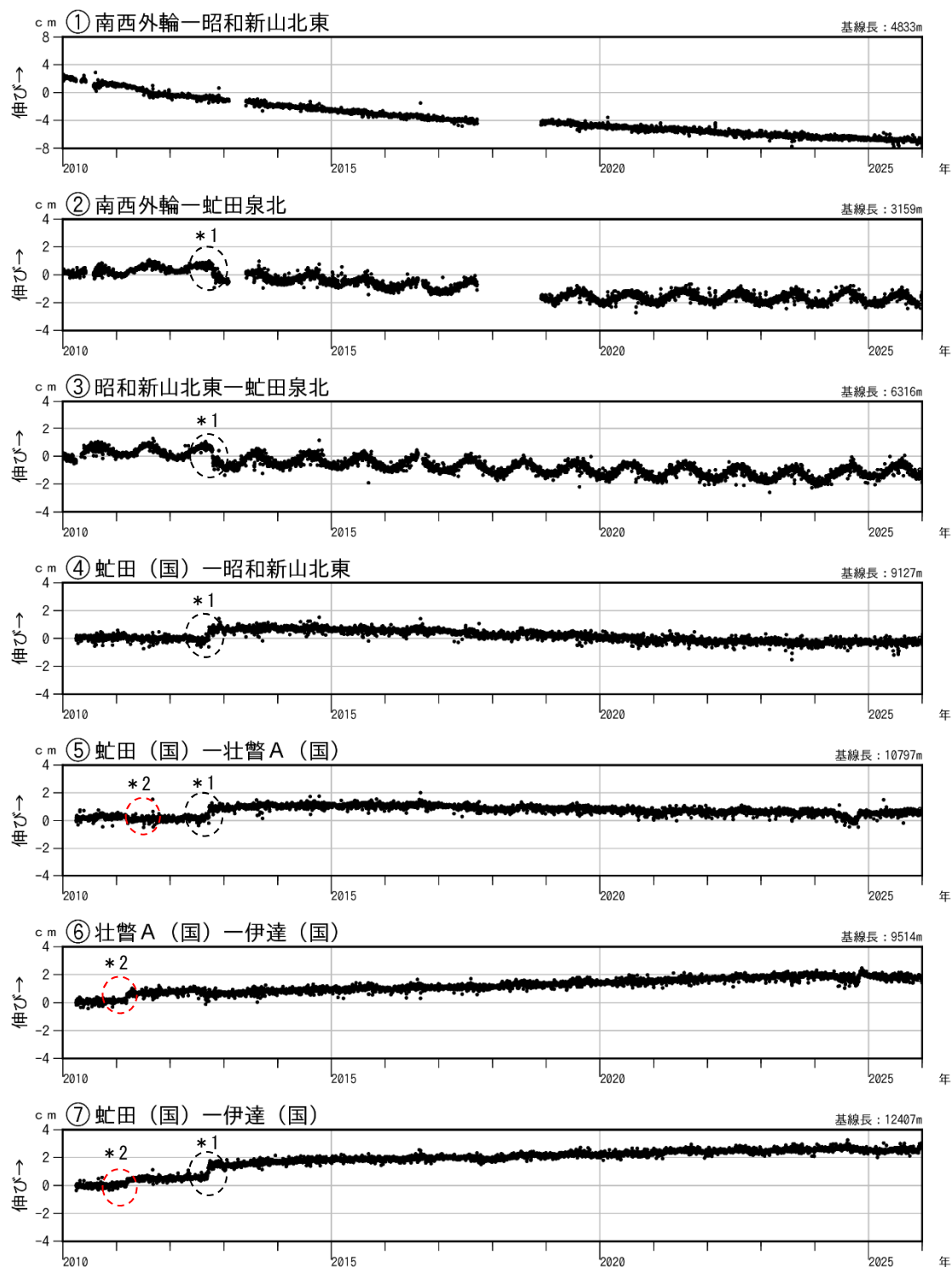


図 7 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2010年1月～2025年12月）

グラフ①～⑦は図8の観測点配置図の基線①～⑦に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

\* 1：黒破線内の変化は機器変更によるものです。

\* 2：赤破線内の変動は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。

- ・ 基線①では、期間を通じて1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によると考えられる短縮が観測されています。
- ・ 有珠山周辺を挟む長基線（基線⑤～⑦）では、現在、特段の変化は観測されていません。

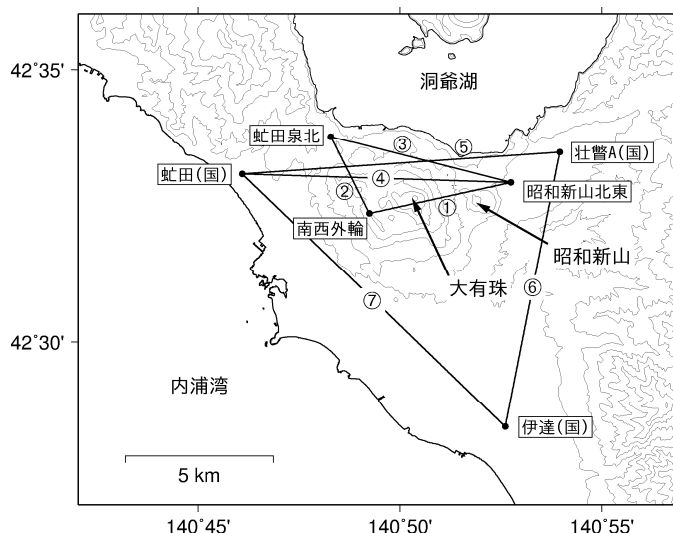


図8 有珠山 GNSS連続観測における観測点配置図

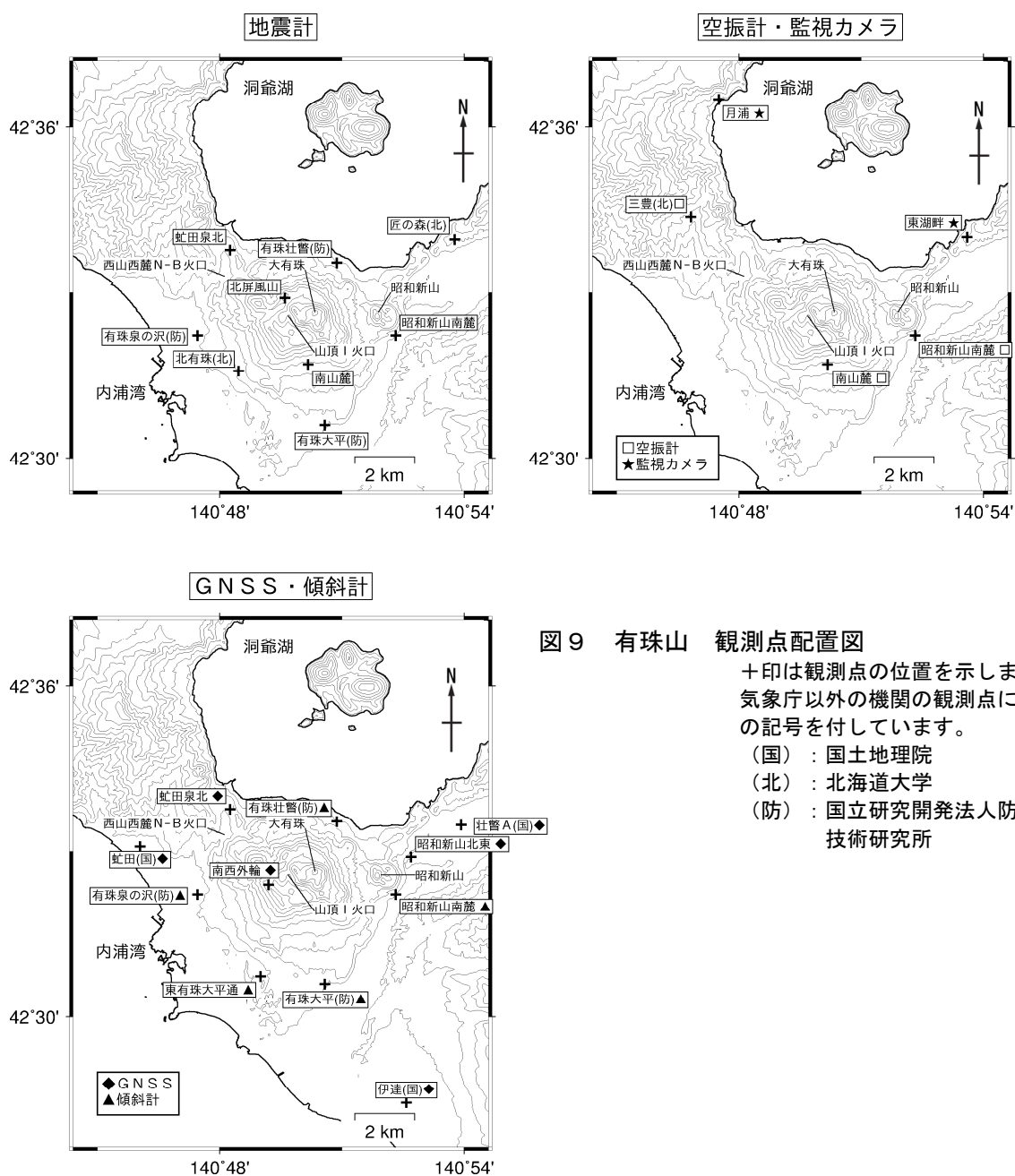


表 1 有珠山 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）  
記号は図 9 に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	南山麓	42 31.70	140 50.17	246	1	1991 年 12 月 3 日	
						-2	2016 年 12 月 1 日	広帯域地震計
		北屏風山	42 32.90	140 49.60	538	0	2003 年 9 月 4 日	
		虻田泉北	42 33.77	140 48.25	183	-1	2001 年 3 月 28 日	
		昭和新山南麓	42 32.20	140 52.29	51	-98	2010 年 9 月 1 日	
□	空振計	南山麓	42 31.70	140 50.17	246	2	2000 年 5 月 3 日	
		昭和新山南麓	42 32.20	140 52.29	51	2	2010 年 9 月 1 日	
★	監視カメラ	東湖畔	42 33.95	140 53.63	192	5	1996 年 12 月 1 日	
		月浦	42 36.53	140 47.50	99	10	2001 年 3 月 16 日	
◆	GNSS	虻田泉北	42 33.77	140 48.25	183	10	2001 年 11 月 8 日	
		南西外輪	42 32.27	140 49.32	527	3	2001 年 3 月 31 日	
		昭和新山北東	42 32.92	140 52.72	51	4	2001 年 2 月 8 日	
▲	傾斜計	東有珠大平通	42 30.74	140 49.09	44	-30	2013 年 11 月 8 日	
		昭和新山南麓	42 32.20	140 52.29	51	-98	2011 年 4 月 1 日	